

図 6-12 測定結果 8 (半透明)

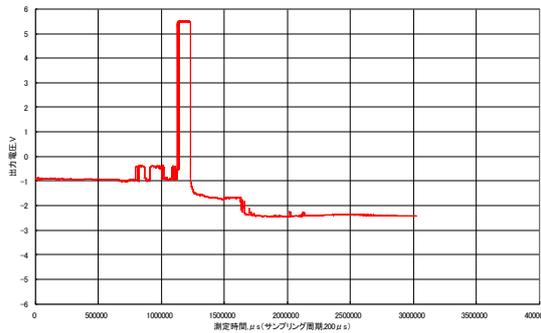
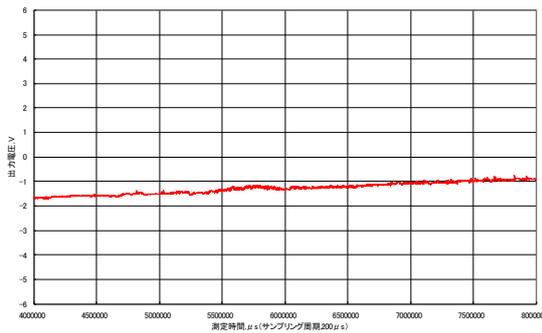
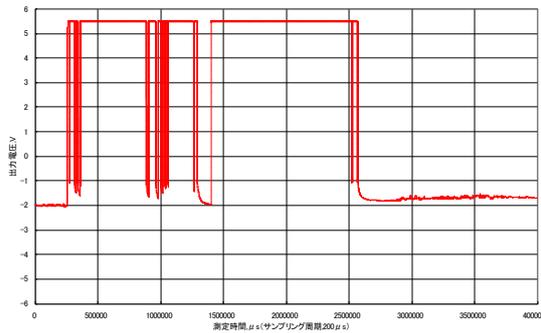
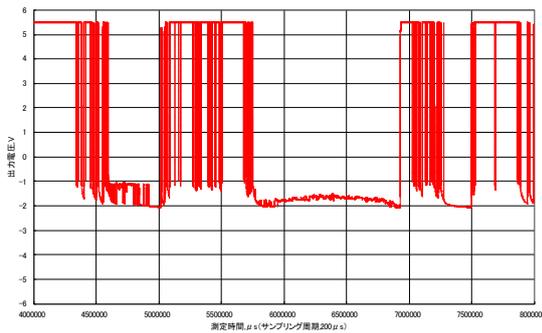
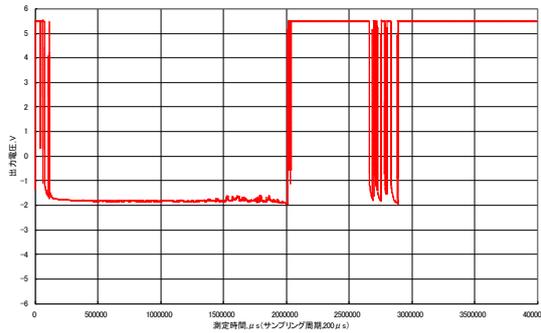
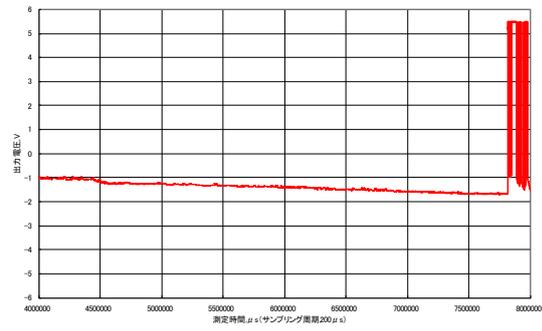
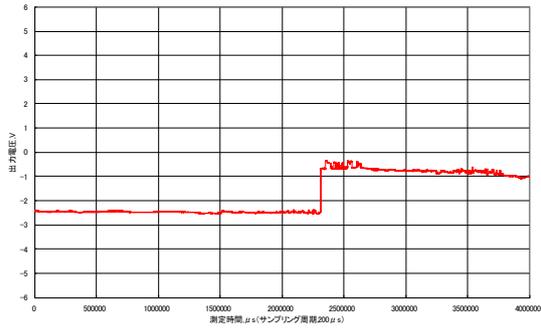


図 6-13 測定結果 9 (半透明)

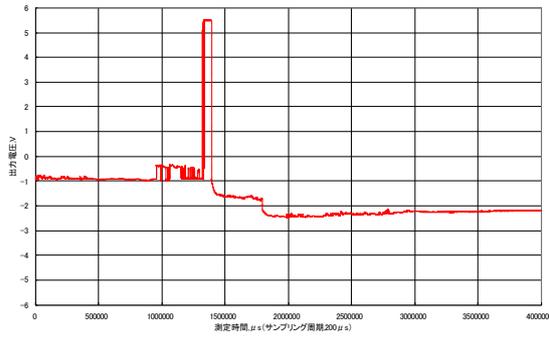
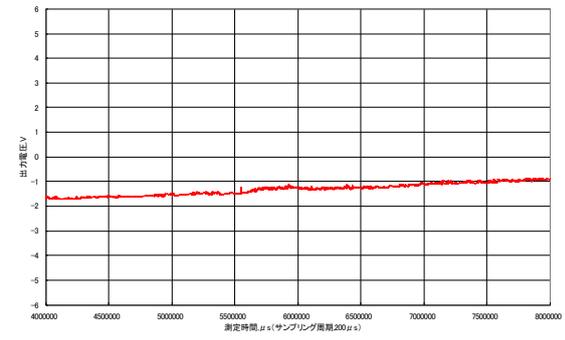
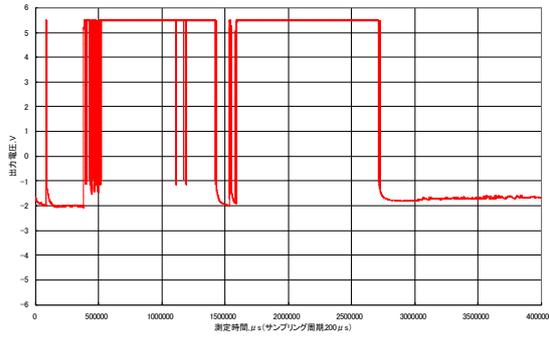
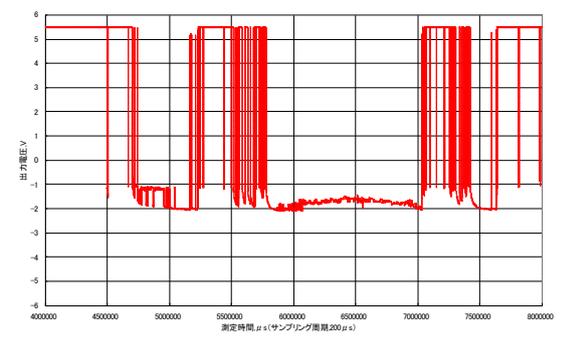
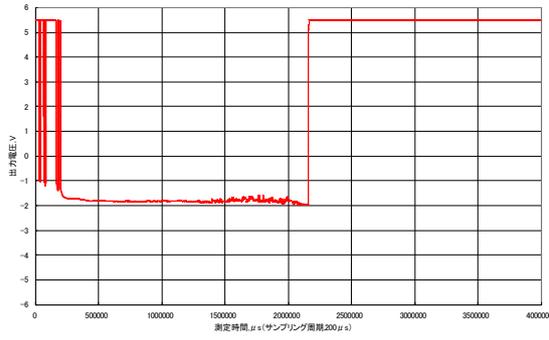
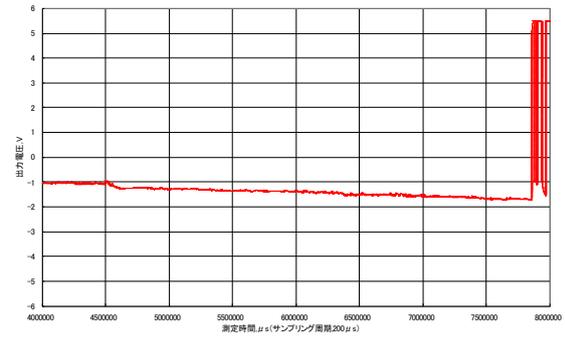
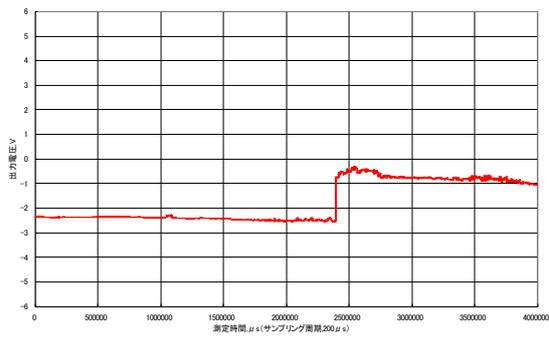


図 6-14 測定結果 10 (半透明)

標準および半透明の結果ともに測定が不安定になる位置はおおよそ再現性を示した。よって、測定が不安定となるのは花崗岩の鉱物の違いによるものではないかと考えられる。測定した花崗岩と測定結果を比較すると、黒雲母の部分で測定が完全にできなくなる傾向があった。さらに、石英の部分でも測定が不安定になるが測定可否を短い時間で繰り返し、測定不可となる時間は短い。また、斜長石は他と比べると比較的安定して測定した。今回の結果から判断すると黒雲母の測定が最も不安定になる結果となった。ただし、花崗岩の鉱物が明確に分かれてはいないため、測定が不安定になる位置の鉱物の完全な判定は難しいと思われた。測定中の受光波形表示でスペクトルのピークが 2 箇所になるのは、石英の部分で多く発生することが確認できた。石英ではレーザー光が 2 重に反射しピークが 2 箇所でてしまうのではないかと考えられる。

測定対象物を半透明にした測定中の受光波形表示では、キーエンスがいわれているように、縦線の大きな変動はなくなった。この効果により、標準の設定でみられた黒雲母①と斜長石・石英まじりの部分の小さな変動はなくなったと思われる。